



〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7-294 (有)基礎ジャーナル社

春日基礎 株式会社
http://www.kasuga-kiso.co.jp/
E-mail: info@kasuga-kiso.co.jp

パイル協と技術協が合併

品質高度化の要請に対応



黒瀬晃会長

二協会が合併し、一般建設技術協会は施工品質向上と普及発展を主目的に活動してきた。しかし建設の安全安心に対する社会的な要求の高まりに伴い、製品・施工の品質の更なる高度化が求められている。この要請に対応するため、両協会の活動を一体化と効率化を図ることとした。また需要環境が年々厳しくなっていることから運営の合理化を図る狙いもある。

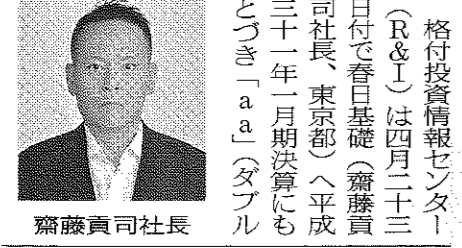
日本杭抜き協会活動開始 全国多数の社が諸課題解決へ

一般社団法人日本杭抜き協会(稲積真哉代表理事)は、芝浦工業大学工学部土木工学科地盤工学研究室(教授)が四月一日、公式に活動をスタートした。全国から会員を募り同日時点で正会員・賛助会員が五十六社、個人会員十五人の規模となっている。既存杭を確実に引抜き、抜き跡を確実に充填する技術により、杭引抜き業界の技術レベルを引き上げると共に、地盤環境問題を解決する。

建設物の高齢化が進んでいる。近年これらを取り壊して同じ場所新たに建てるケースが増えている。解体工事や既存杭の引抜き工事が著しく増加してきた。そのなかで引

春日基礎 13期連続の高ランク維持

R&I 底固い事業基盤を持続



齋藤貞司社長

格付投資情報センター(R&I)は四月二十三日付で春日基礎(齋藤貞司社長、東京都)へ平成三十一年一ヶ月決算にもつき「a」(ダブル)にわたっての高ランク維持となる。齋藤社長は「結果は妥当だと思っています。自己資本比率86.8%という領域に達するとあら



低空頭・狭隘な現場で軌陸式杭打機による春日基礎の施工

今後も事業環境面では各鉄道会社の設備更新、改良や品川地域の再開発などが予定されており、中期にこれらの工事の需要が見込める。建設機械への設備投資や人材投資は、当環境下で競争力を高め、受注を獲得するうえで重要となると考えられる。今後の設備投資や人員調達を通

財務構成は良好であり、自己資本比率は86.8%となっている。利益の蓄積に加え、無借金。以上を総合的に判断し、中期に「a」を獲得したのは平成十九年。建設業はいま順風下にあるが、長い年月における経営の持続性

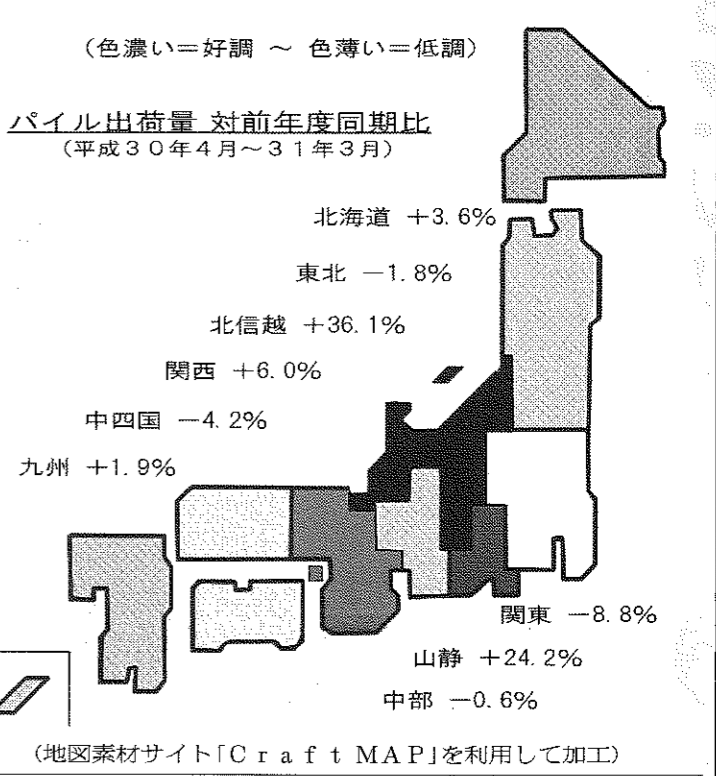
という点では景気の波に洗われやすい。不況時にも高ランクを維持するのはかなり困難だ。同社は常に財務体質の向上に力を入れ、逆風においても体力を失わない経営基盤を築き上げ、その結果として高ランク維持を果たしている。

れた後に発覚し賠償問題に発展したケースも見受けられる。抜き跡地盤の不良化は引抜き後の埋戻しが不完全なため、地中に空隙がでるなどして地盤が弱くなる問題。周辺地盤の陥没、隣接家屋の傾斜、新設杭のズレや斜杭化、山中・施工後ともさまざまな地盤環境問題が顕在化している。

協会では、杭引抜き施工メカニズムの解明、管理手法、埋戻し評価基準、問題の原因、解決の方法などを学術的見地から明らかにする。それにより杭引抜き工事の標準的な指針を作成する計画だ。併せて杭引抜き工事へのICT、CAE、AIなど先進的な補助技術の導入や技術改善を提案する。

昨年度パイル出荷 地域別の状況

平成三十年度のコンクリートパイル出荷量は前年度比0.7%減の272万6033トンとなった。(第3面に関係記事・第2面に資料)



(地図素材サイト「Craft MAP」を利用して加工)